苧環型蛇聟入伝承の特徴と地域との関係性
－愛媛県西条市加茂地区に伝わる『うすくも姫』を事例に－

渡邉玲士（愛媛県庁）・淡野寧彦（愛媛大学社会共創学部）

要旨

本研究は，特定地域内で語り継がれる苧環型蛇聟入伝承に関して，その特徴と地域における生活との間においてどのような関係性が構築されるのかについて，愛媛県西条市加茂地区に伝わる『うすくも姫』を対象に考察することを目的とする。『うすくも姫』は，三輪山の神婚神話を起源とする苧環型蛇聟入伝承に含まれ，中世期の人物について語られるものであり，佐々木（2006）が示す「伝説モデル」や「昔話モデル」としての民話として構成されていた。さらに地域で語り継がれる『うすくも姫』の内容には，うすくも姫が暮らしたとされる風透集落東部を流れる谷川や止呂が淵の存在の影響からか，蛇聟伝承とは直接関係のない竜宮伝承が混在したものもみられた。また，風透集落に居住経験のある人物への聞き取りを通じて，『うすくも姫』が地域住民にとっての共有知識であったことが示され，『うすくも姫』を通じて集落内の事物を認識したり，地域の歴史や文化を理解したりする効果のあったことが考えられた。

Ⅰ　はじめに

日本における民話・口承文芸の採集は，1920年代半ば頃より柳田国男や關敬吾らによって始まった。民話研究の成立段階においては，柳田（1947）が最初に民話をはじめとする口承文芸を体系的に論述し，その後も柳田（1948；1950）や關ほか（1980）などの成果が挙げられた。そしてこれらの言及は，伝説の話形の確定やモチーフの分析に重点が置かれていた（久保，2018）。2000年代以降の主な研究では，昔話を文字化されたテキストとして読み解く手法（石井，2000）や，場所表現にみる環境知覚から読み解く手法（佐々木，2006）などの新たな視点が取り入れられている。また久保（2018）は，口承文芸という用語自体，その枠組みを問い直す動きが盛んになっていることを指摘した。

本研究で取り上げる「苧環型蛇聟入（おだまきがたへびむこいり）」は，關ほか（1980）が「本格昔話」の中の「婚姻・異類聟」に分類した一話形であり，先行研究として場所表現や伝承の変化と環境知覚との結びつきに関する分析（佐々木，2007；渡邉，2010）や，川森（1993）による日韓の異類婚姻の類型分析研究などがある。また，異類との「別れ」に着目し，物語の展開の変遷を分析した吉田（2009）や，物語に登場する異類の「性別」や「種類」が物語の展開に与える影響を分析した難波（1993）や中村ほか（1987），「変身」に着目し，人と動物とのあいだの距離感を探った中村（2010）など，物語を構成する要素からその展開の変遷やイメージを分析する研究も多い。一方で，「蛇聟」が伝承地の地域的特徴や現地での生活にどのように関係していたのかに関する研究は少ない。地域との関係性を検討に含めた研究においても，その範囲は都道府県レベルと広く，特定地域の中で語り継がれた伝説と地域の関係性について取り上げたものは，筆者の管見の限り見当たらない。

本研究が対象地域とする愛媛県西条市加茂地区風透集落においても，「苧環型蛇聟入」に分類される『うすくも姫伝説』（以下『うすくも姫』）が伝わっており，話の内容には実際に存在する事物が含まれている。そこで本研究は，特定地域内で語り継がれる苧環型蛇聟入伝承について，その特徴と地域における生活との間においてどのような関係性が構築されるのかについて，愛媛県西条市加茂地区に伝わる『うすくも姫』を対象に考察することを目的とする。

本研究の研究方法は次の通りである。まず文献調査を通じて，Ⅱでは愛媛県に伝わる主な民話の特徴について，Ⅲでは苧環型蛇聟入伝承の内容やストーリー展開の特徴について，それぞれ整理・分析する。Ⅳでは，西条市加茂地区における生活実態について，文献調査に加えて過去に同地区に在住していた人物（A氏）や地区自治会，神社関係者などへの聞き取